



社会福祉法人聖霊会
聖霊病院
HOLY SPIRIT HOSPITAL

〒466-8633 名古屋市昭和区川名山町56番地
Tel: 052-832-1181
https://www.seirei-hospital.org

01 クリスマスクッキーのプレゼントについて



南山大学を拠点に活動する、企画・イベント・広告系有志団体「Nanzan AID」の皆様より、12月24日クリスマスイブにクリスマスの喜びを分かち合っほしいという意向で手作りクッキーのプレゼントがありました。クッキーは入院患者さんに配布し、思いがけないプレゼントにととても喜んでいただきました。昨年引き続き温かいお心遣いをありがとうございました。

02 絵本の寄贈について



民間の慈善団体「名古屋キワニスクラブ」様より、当院のこれまでの小児医療を評価いただき、絵本164冊を寄贈いただきました。小さな絵本から大きな図鑑までそろっており、幅広い年の子どもたちに喜んでもらえると思います。絵本は小児科外来や病棟のプレイルームなどに配置いたしますので、ぜひ手に取ってみてください。なお、本のカバーフィルムは当院のボランティアの皆さんにご協力いただきました。本当にありがとうございました。

03 イオン健康講座について



イオン八事店様の4階G.G.イベントコーナーをお借りし、健康に有益な情報や当院で実施している診療や検査等をご紹介します。現在は、約2か月に1回のペースで開催しています。店内のイベントカレンダーや当院のHP、院内掲示等で告知しておりますので、ぜひお買い物のついでにお立ち寄りください。

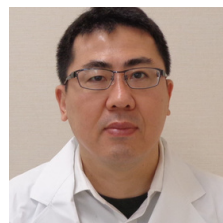
日程	これまでのテーマ	講師
9/12 (火)	40分でやる最新の全身がん検査「DWIBS」	放射線技術科 米澤副技師長
11/15 (火)	検診における検査データの見方	臨床検査技術科 今枝技師長
2/19 (月)	小児の成長について	小児科 今峰診療科部長

※2月19日の講座の様子

撮影場所：伊良湖 菜の花ガーデン（愛知県田原市） 写真提供：用度課課長 幾田 和男

新任医師のご紹介

2024年1月に新たに常勤医を迎えました。よろしくお願いたします。



整形外科
木村 良彦
専門領域：整形外科全般

★病院スタッフ募集中★

今まで培ったキャリアを当院で活かしませんか？ 優しさと思いやりを大切に患者さん一人ひとりに寄り添う看護・診療を一緒に行いましょう！ まずはお気軽にお問い合わせください。募集職種につきましては病院ホームページの採用情報をご覧ください。

<お問い合わせ先>
人事課 水野・新保
(代表：052-832-1181) 新卒の方はコチラ



理事長 ご挨拶



理事長 内海 眞

イエズス会の神父ティヤール・ド・シャルダンは、地質学者・古生物学者として「現象としての人間」を著した。その要約は、以下の様になる。地球は数十億年前に誕生し、始めは原子と簡単な分子からなる世界だったが、それらは互いに結合し複雑化して高分子を創り、高分子もまた複雑化の過程を経て初めての生命（細胞）を創造した。細胞もまた複雑化の過程を経て多細胞生物である植物と動物へと進化し、ついには高度な中枢神経を創り精神が誕生した。この地球の歴史（進化）を貫くのは複雑化の過程であり、複雑化が臨界点に達すると次元の異なる存在が出現する。物質からは生命であり、生命からは精神である。宇宙の素材は精神を生み出したのだ。

では、今後の進化は？ 当然精神の領域の進化であり、それは聖なるものに向かう（神の創造の）過程と彼は考える。この世界が聖なるものに向かうのなら、我々の生をそれに向け、その過程に参加するように生きてみよう。その時、我々の生のみならず死さえにも意味が与えられ、死を超えることができるのではないだろうか。

院長 ご挨拶



院長 春原 晶代

今年は、新年早々から大きな地震や航空機事故が起きました。亡くなられた方々に、謹んで哀悼の意を表します。被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げ、少しでも早く日常生活が取り戻せるよう願っています。

当院でも、改めて災害時の病院の対応を振り返り、防災訓練などを行っていきます。寒さが続いて体調管理の難しいこの頃です。新型コロナウイルス感染症も増加してきています。今回は寒さに関連する病態についての対応策を掲載しました。体調管理の参考にしてください。また、昨年8月より検査システムを入れ替えました。検査での待機時間の減少など患者様の利便性が向上したと思います。今後とも、受診しやすく良質な医療を提供できる病院を目指して、取り組んでいきます。よろしくお願いたします。

高齢者に多い腰椎圧迫骨折を防ぐには

若くて骨がしっかりしている人は転倒しても骨折することはまれです。高齢になって骨がもろくなる（骨粗しょう症）と、転倒で骨折することが多くなります。手術が必要な大腿骨の付け根の骨折（大腿骨近位部骨折）とは違い、脊椎（せぼね）の骨折（圧迫骨折）は、手術になることは多くありません。しかし治療しても腰痛が続き健康な生活を送る障害となることは多くあります。圧迫骨折は大腿骨近位部骨折よりも何倍も多く発生しています。

ではどうしたら骨折を防ぐことができるでしょう？骨を強くすることはもちろん大事です。そのうえで転倒を予防することが重要です。



冬場は転倒が多くなるとも言われています。雪や氷などで足元が滑りやすくなっていることや、寒いことが関係しています。寒い時期に屋外を歩く場合には滑りにくい靴を選びましょう。普通に屋外を歩く時は、かかとから着地して、つま先をけるようにして歩くことが勧められていますが、路面が滑りやすい時には 歩幅を狭くして足裏全体で着地してけらずに、すり足のように歩きます。マンホールや横断歩道の白線の上など滑りやすいところは注意しましょう。

また、寒いとそれだけで手足が動かしくなくなり、転倒しやすいというデータもあります。そのうえ、厚着をしたり、ポケットに手を入れて歩いたりすると、バランスを崩したときに対応しにくくなります。

まだまだ春先にも寒い日があります。寒い日に外出するときには、滑りにくい靴を選び、動きやすい服装で転倒しないように注意しましょう。

副院長 整形外科 安藤 智洋

あかぎれを防ぐには？



みなさん、誰もが一度は「あかぎれ」の経験があるのではないのでしょうか。そもそも、もともと「あかぎれ」は「あかがり」と呼ばれていて、「あ（足）」+「かがり（ひびわれ）」が語源でした。その後、「あか（垢、赤）」+「がり→ぎれ（切れ）」と転化し、「赤く切れる」という意味で「あかぎれ」という言葉が定着しました。もともとあかぎれは冬の乾燥する季節に多くみられますが、ここ数年は新型コロナウイルス感染症の影響で、**手洗**や**アルコール消毒**の機会が多くなり、今まで発症したことがなかった方でも、手指の乾燥やあかぎれを発生してしまうのです。あかぎれを防ぐには「**手指の保護**」と「**保湿ケア**」が大切です。

食器洗いや洗濯の際にも極力**ゴム手袋**を使用することや、乾燥した空気の中では手袋をはめていただくことがよいでしょう。そして手洗や消毒のあとは**毎回保湿剤**をぬることが大切です。最近ではべたつきにくいものや、濡れたままの手に使えるもの、消毒もできるものまで様々な種類が増えていきますので、ぜひこの機会にご自身にあったハンドクリームを探してみたいかがでしょうか。もちろん、保湿だけでは治らない症状の方はぜひ一度皮膚科に相談しにいらしてくださいね。

皮膚科医長 加藤 香澄

夜に何度もトイレに行く ～夜間頻尿の話～



夜間、排尿のために1回以上起きなければならない症状を夜間頻尿といいます。加齢とともに頻度が高くなります。夜間頻尿の主な原因として夜間多尿と膀胱容量の減少があります。夜間多尿の原因の一つに多飲があります。水分を多く摂取すればトイレに何度も行くという当たり前の話です。水分を摂ると血液がサラサラになり、脳梗塞や心筋梗塞が予防できると信じて寝前や夜間にたくさんの水分をとる方がいますが、科学的根拠はなく、水分の摂りすぎで頻尿になっている場合は、むしろ水分を控えることが必要です。

膀胱容量が減少する代表的な病気に過活動膀胱があります。膀胱に尿が少量しか溜まっていないのに関わらず尿意を感じてしまったり、膀胱が勝手に収縮してしまう病気で、トイレに急いで駆け込む症状（尿意切迫感）があるものです。薬を飲むことにより改善が期待されます。

夜間頻尿は、日常生活において支障度の高い（困る）症状であり、高齢者の場合は転倒や骨折の原因となることもしばしばです。ぜひ泌尿器科でご相談ください。

泌尿器科部長 伊藤 靖彦

部署紹介

『新・検査室誕生！』

当院臨床検査技術科は1階に患者受付、採血・採尿・生理検査室、2階には検体検査室があります。

1階検査室では受付後に採尿して、採血や生理検査を実施して頂きます。これまでは、採血の順番待ちが長いことがあり誠に申し訳ありませんでした。3月からはスペースを拡大し、人員を増やして採血を実施します。

生理検査には心電図検査・肺機能検査・聴力検査・血圧脈波検査および各種超音波検査があります。超音波検査は腹部・循環器・体表・婦人科超音波検査を実施しています。今後も、超音波検査士のライセンスを取得している専門のスタッフを育成していきます。



臨床検査技術科のスタッフ



検体検査室は古い装置が大半を占めていましたが、昨年8月にすべての装置を刷新しました。

『最新の装置を導入して検査しています！』

地域の皆様は、採血した検体から生化学・免疫検査の結果がどのようにして出るかご存じですか？

採血後に5分遠心して血清と血球に分離します。そして、血清を用いて専用装置で測定します。測定時間は生化学検査が約15分、免疫検査は約20分です。血液検査はそのままの血液を用いて測定時間は3分です。今回、採血してから結果が出るまでの時間が短くなりました。今後は、診察の40分前に採血して頂ければ、検査結果は診察に間に合います！

臨床検査技術科は、昨年8月に「新・検査室」を構築し、今年3月からは増員して体制を整えました。私たちは地域の皆様が安心・納得して検査して頂けることを心がけています。



臨床検査技術科 技師長 今枝 義博

検体検査室では採血した検体や採取した組織・細胞を用いて次のような検査を実施しています。

- 生化学検査：肝機能・腎機能・心機能・栄養状態・脂質・糖・炎症・貧血・電解質
- 血液検査：赤血球数・白血球数・凝固機能など
- 免疫検査：感染症・腫瘍マーカー
- 輸血検査：血液型など
- 微生物検査：Covid-19（コロナ）・インフルエンザなど
- 一般検査：尿検査・便検査など
- 病理検査：組織診断・細胞診断